

2021年～全国水平社創立100年まで、あと1年

～子どもたちとともに『気づき』と『つながり』を育む～

湖南省立甲西中学校 人権学習「人権のつどい」の取り組みから学ぶ

「日本で最初の人権宣言」といわれる水平社宣言では、差別がある人の世の冷たさに対して「熱」を求め、人ととの間に「光」があたるよう、呼びかけられました。

12月の人権週間に、各校園で「人権学習」が実践されています。一年の終わりに、自分自身の人権感覚をみつめ直す時間をもつ有意義な学習機会になっています。

今回は、湖南省立甲西中学校を訪問して、生徒と教員がいっしょに「人権劇」を制作する人権学習の取組のなかで育まれる学びのようすを、千代哲雄さんから教えていただきました。

人権劇の原点をたどると、今から約20年前、差別落書きや差別発言が止まなかったときまでさかのぼります。「差別はアカン。」という指導に限界があったことや、生徒からの「自分たちの学校をよくしたい。」という意見、地域からも「生徒の活動を増やしてはどうか。」との声などが支えとなって、人権委員会がスタートしました。

今、人権委員は、自主的に活動したいという思いをもって、全校で60名ほど集まって活動しています。12月10日の世界人権デーにあわせ、午後に「人権のつどい」を開催して学習を継承されています。



文化情報部 制作の看板
「Take Action」
心の距離をぎゅーっと!」

●人権学習を通して、子どもたちのようすから学んだことを聞かせてください。

「身の回りで気になることや、おかしいと思ったことを出発点にして考え、取り組んでいます。昨年は、ラグビーのワールドカップ開催にちなんで、外国にルーツをもつ子どもたちについて考える機会をもちました。マイノリティーの環境に立場が逆転したという役の設定から、われわれの発想の転換を問い合わせました。また、本校に通う日本語教室で励む生徒たちに焦点をあて、自分たちの思いを話す場面を収録しました。人数は少ないけれども、外国にルーツをもつ仲間が、日本語教室でがんばっていることを全校的に知る機会となりました。また、全校から、学習が苦手な子どもたちの思いが多く寄せられ、共感が広がりました。」

「はじめは、自信がなさそうだった生徒が、劇に出ること等、活動を通して自信がついたようすがみられることに、やりがいを感じています。授業中に、積極的に発表ができるようになったという話を聞くと、うれしいです。」

「2年前、部落差別をテーマとした劇に取り組みました。差別をされている生徒に助けられ、つながっていくという主役を演じた卒業生は、今、芸能界で活躍しています。人権学習で劇に取り組んだ経験が、子どもたちの人生の転機にもなっています。」

●今年は「コロナ禍」のなかで、多くの人権課題が懸念されています。今、子どもたちといっしょに活動をすすめているようすを聞かせてください。

「新型コロナウイルス感染症対策のため、人権動画の制作というかたちで活動をすすめています。16人の生徒が出演し、100以上のコマを撮影しました。人権委員会で検討をし、今年は、新婦人協会の発会100年を意識して『男女共同参画社会』を中心テーマに据えました。生徒たちとの話しあいでは、当初、『男女差別を身近に感じていない。』という意見がほとんどでした。わたしは『今の子どもたちの身の回りではそう感じるのかも知れない。しかし、『主人』や『旦那』、『嫁』など、多くの人が何気なく使っている言葉の例をひとつとっても、とても気になります。社会の現実をみつめてみると、本当にそう言えるのか?』という思いがあり、教員にも問題提起をしながら、いっしょに考えてきました。」

●人権学習に取り組む各校園や、若い世代への教員へのエールや思いを聞かせてください。

「『新しい感覚』で、『気になること』から始めたらよいと思います。劇や動画の制作は、生徒や若い先生方が興味をもちやすい取組です。出演に携わるだけではなく、監督も生徒ができればよいと考えています。子どもたちや若い先生方に任せて、いっしょに考えていくなかで、よい発想が生まれると思っています。」

●「反差別」への思いについて聞かせてください。

「差別をすることが『悪い』『アカン』で終わるのではなく、自分自身の差別心を問うことを大事にしています。これまで、差別されている人がつらい思いをしているという学習内容が多かったと感じています。道徳的な『心がまえ』を問うだけではなく、大事なことは、学習を通して、われわれのなかにある差別心を掘り起こしていくことです。学習することで得られる「気づき」とともに、「仲間とつながる」ことも意識して取り組んでいます。学級だけにとどまらず、全校集会をおこなって人権学習をすすめていることも、その一環です。」

千代哲雄さんから、お話を伺って

各学級で「学級人権宣言文」をまとめ全校集会の場で発表をおこなっていることや、全校の生徒が「人権標語」を考え、学級ごとに人権委員が代表の標語を選出し、全校生徒による投票を経て人権委員会から表彰をする取組のようすをご紹介いただきました。



全校生徒による人権標語

「自分たちでできることを考える」という、甲西中学校の人権学習の原点が継承されています。

また、優れた実践から学びながら、自分たちの学校にあわせた実践を作りあげてきたことが今の取組に生かされていることや、子どもたちとの感覚が近い若い先生方への期待を、温かい気持ちをもって語られたことが印象的でした。

人権劇や人権動画の取り組みを通して生徒にみられる成長について伺ったときには、学校全体が『安心感』に包まれたなかで子どもたちが生活を送っているようすを想像していました。自分の思いを打ち明けることができる学校・集団を築いていく、人権学習の根幹にふれることができました。